

# 3年2組 算数科学習指導案

令和6年11月6日(水)

場所：3年2組教室

授業者：

## 1 単元名 「小数」

### 2 指導の立場

#### (1) 単元について

本単元で扱う内容は、学習指導要領には、以下のように位置付けられている。

#### 第3学年 A(5) 小数の意味と表し方

小数とその表し方に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 端数部分の大きさを表すのに小数を用いることを知る。また、小数の表し方及び  $1/10$  の位について知ること。

(イ)  $1/10$  の位までの小数の加法及び減法の意味について理解し、それらの計算ができることを知る。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 数のまとまりに着目し、小数でも数の大きさを比べたり計算したりできるかどうかを考えるとともに、小数を日常生活に生かすこと。

第3学年では、第2学年での長さや体積を単位を用いて表す経験を踏まえて、端数部分の大きさを表すのに小数を用いることを理解し、それらを適切に用い、そのよさに気づき、学習したことを生活や学習の中に活用できるようにする。また、小数を用いると、1Lに満たない量を0.8Lと表したり、2Lと5dLをあわせた量を2.5Lと表したりすることができる。その際に、これらの量を測定する単位の構成が十進構造になっていることについて理解できるようにする。

そのため、小数を、0.1を単位としてみたり、整数と同じ十進構造であるとみたりする数学的見方・考え方を働かせることが大切である。また、小数の加法減法についても、単位に着目させて考えることで、整数の計算の仕方をもとにすれば計算できることに気付かせることが大切である。

#### (2) 児童の実態について

本単元で初めて小数を扱うため、分析は、数の見方・考え方をみとることができる「大きい数のしくみ」の「単元まとめ練習」で行った。(結果は別紙参照)

<単元まとめ練習の間違ひの多かった問題>

問題	●正答率 ▲県との差	誤答例
【千や一万を何個集めた数か】 1000を48こ集めた数はいくつですか。	●83.3% ▲-6.8%	・ 答えの末尾の0の数をまちがえてしまう。 ✕80000,4800など
【数の線で表された数】 次の数の線で↑が表す数を答えましょう。 	●87.5% ▲-2.6%	・ 20000にメモりの数だけをたしてしまう。 ✕0007 ・ 20000を忘れてしまう。 ✕000
【100倍した数】 302を100倍した数をもとめましょう。	●78.9% ▲-12.3%	・ 答えの末尾の0の数をまちがえてしまう。 ✕020,302000など
【10でわった数】 41000を10でわった数をもとめましょう。	●57.9% ▲-29.2%	・ 答えの末尾の0の数をまちがえてしまう。 ✕10,41など

以上より、答えの末尾の0の数を間違えてしまう問題が3問もあることから、位ごとに数を見る力や、数を何十倍したり割ったりしたときの位の上がり下がりや、割ると位が下がるということは理解しているが、100倍で位が2上がる、10で割ると位が1下がるというだけ位が変化するかにおいて理解が不十分であると考えられる。これらは「10の10個分で100」「10の100個分で1000」という基礎の考え方が定着していないことが要因と考えられる。小数の単元でも、「0.1の何個分」という考え方が大切になる。毎時間「0.1の何個分」を意識することができる視覚的工夫や発問の工夫が必要である。

#### <児童の実態>

本学級の実態調査を行った。以下はその結果である。

質問	結果(割合)
① 算数の授業は好きですか。	肯定的回答 76% 否定的回答 24%
② 算数の内容はよくわかるか。	肯定的回答 80% 否定的回答 20%
③ 答えを出すとき、その答えになる理由を考えていますか。	肯定的回答 88% 否定的回答 12%
④ 算数の考え方を使うよさを考えているか。	肯定的回答 72% 否定的回答 28%
⑤ 計算の仕方や問題のとき方を人に説明することに自信を持っているか。	肯定的回答 56% 否定的回答 44%
⑥ いろいろな考え方が出たとき、どの考え方が一番いいか考えているか。	肯定的回答 80% 否定的回答 20%
⑦ 算数で学んだことを日常で使えそうか考えているか。	肯定的回答 72% 否定的回答 28%
⑧ 授業中、問題のとき方に困ったときは、どうしているか。	仲間聞く 80% いままでの学習を見返す 12% 何もしない 8%
⑨ 仲間の考え方を、自分でもいえるようになるまで仲間と学び合っているか。	肯定的回答 84% 否定的回答 16%

以上より、本学級の児童の約7割は算数の学習に熱心に取り組んでいる。また、仲間と学び合う意識が高く、普段の授業でも活発に交流を行っている姿が見られる。

一方、⑤の結果から、説明に対する苦手意識を持つ割合が高く、およそ半数の児童が不安または自信がないとしていることが分かる。そのため、「わからないと思ったらどうするか?」「分かったと思ったらどうするか」といった学び力を育てることが大切だと考える。また、説明を考えるために、仲間と交流したり、前時までの学習を見返したり、教科書やヒントを見たりするなど様々な方法の中から、自分のタイミングで必要に応じて選択して学びを進めることが必要である。しかし、⑧の通り、「何もしない」が8%いることから、自分で自分の説明を評価し、必要な学び方を選択することは容易ではないと考えられる。そこで、それぞれの児童に応じて、学び方の選択を適切に行うことができる個別発問をしていきたい。適切な個別発問をするために、児童の説明やノートに記述しそうなことを事前に予想し、それぞれに合った個別発問をあらかじめ考えておく。また、学び方の選択肢が児童にとって学びやすいものになっていくにはいけない。選択肢の「仲間と交流する」を学びやすいものにするために、ノートに説明を書くことができた児童から口頭ノートに提出し、児童同士で自由にノートを見ることができるようにする。そうすることで、早く考えられた児童が自分と他の児童の考え方を比べたり、つまづいている児童は考え方のヒントにしたりして、個々にあった意図的な交流相手の選択をしやすくなると考える。「いままでの学習を見返す」では、見返したときに、その時間の「考え方」や「根拠」、

「図と式と言葉の関連」が分かるようにする必要がある。そこで、毎時間、「考え方」や「根拠」、「図と式と言葉の関連」が一目で分かる板書をし、ロイロノートでいつでも見返すことができるようにする。また、毎時間1問復習を行い、見返した前時までの考え方と、本時の課題解決と繋げやすくする。

### 3 研究内容に関わって

#### 見方・考え方を働かせ、数学的に考える児童を育てる指導の在り方

#### 視点① 単元を通して学ぶ手立て

算数は系統性の強い教科である。特に、本単元では、「0.1の何個分」という考え方を応用して課題解決をしていく場面がほとんどである。単元を通して、児童自らその考え方の大切さに気づき、数学的に考え、適切に応用していけるような力をつけられるようにしたい。そこで、以下の2つの手立てを行う。

- (1) ロイロノートで「ふりかえりシート」を作成する。  
毎時間の課題とそのまとめ、具体的な問題の解き方をロイロノートのカードにまとめ、児童に配り、いつでも見返せるようにする。特に「考え方」や「根拠」、「図と式と言葉の関連」を明確に板書に位置付ける。
- (2) 「1問復習」を行う。  
毎時間の始めに1問だけ前時の復習問題を行い、「ふりかえりシート」と合わせて、前時の大切な考え方を振り返り、本時の課題解決の足掛かりになるようにする。問題の選定については、本時の課題解決に活用する、前時の正答率の低かった問題や、基本問題など、意図的に選択する。
- 以上の2つの手立てを行い、単元を通して、数学的に考える児童を育てていけるか考えたい。

#### 視点② どの子の思考も進めるための工夫

##### (1) 個々の学びの状況に応じた個別発問計画

本時では、児童自身が必要に応じて学び方を選択し、学びを進め、小数を「0.1の何個分」で考えることにより、引き算も足し算と同じように整数で計算できることが大切な考え方であることにたどり着く姿を目指したい。それぞれの児童が学び方を適切に選択することができるようにするために、児童の学びの状況に応じて以下のような個別発問計画をした。

○学び方の評価・促し ●算数の思考を進める評価・促し

どのように考えてよいか分からない。 ○わからないときはどのように考えるとよかったかな？ ○「足し算と同じように」だから、足し算の「ふりかえりシート」を見てみたらどうかな？ ○まずは教科書で調べることではできそうだね。 ○ロイロノートで、ほかの子たちの考え方を見てみよう。 ○分からないところを聞きに行ってくるといいよ。	自分で考えることはできるが、考えが十分でない。 ●「なぜ、5-2なのですか。理由をはっきり書いていますか？」 ●「図のどこに5-2がありますか。」 ●「どうして0.1のいくつ分で考えようと思ったのですか。わけを書きましょう。」 ●「ます図や数直線で残りの0.2Lってどうして分かったのですか」 ●「この言葉をます図でいうとどういうことですか。」「ます図に書いたことを言葉で説明するとどうなりますか。」 ○「この部分がはっきりしていないね。そのことについて、〇〇さんが考えていたよ。」	1つの方法で考えたことに満足している。 ●「この言葉をます図でいうとどういうことですか。」「ます図に書いたことを言葉で説明するとどうなりますか。」 ○「〇〇さんはます図と言葉をつなげて考えていたよ。」 ●「つまり、まとめると小数の引き算はどのように考えればいいのですか。」 ●「小数の引き算は足し算と同じようにできるのですか。」 ●「0.5-0.2以外の小数の引き算でも同じようにできるのですか。」 ○「〇〇さんは、ほかの場合でも同じようにできるか考えていました。一緒に考えてみよう。」
解釈から始める	根拠・解釈を問う	発展・統合を問う

この児童の学びの状況に応じた個別発問を行うことで、数学的見方・考え方を働かせ、個々に応じた学びを進め、児童たち自身で大切な考え方にたどり着くか考えたい。

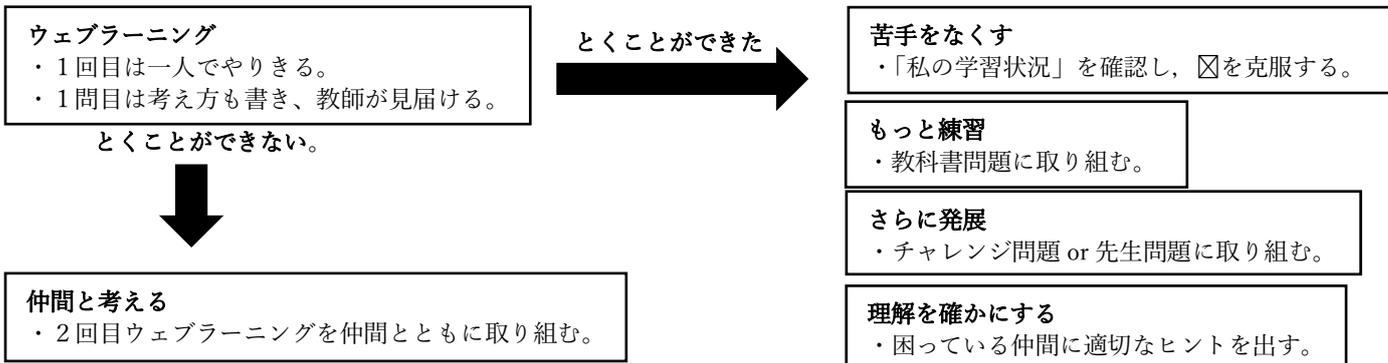
##### (2) 個々に応じた学び合いを促すICT活用

本校では自身の学習の立場に応じて仲間と学び合うために「学びの準備」を使っている。本学級も「学びの準備」を使って、交流時に自分のすべき行動を確認して学びを深める姿が見られる。本研究ではさらに、ほかの児童の考え方を見て考える足掛かりにしたり、交流する相手を意図的に選択し、学びを深めたりしていけるようにするために、ノートに説明を書くことができた児童からロイロノートに提出し、児童同士で自由にノートを見ることができるようになる。

以上の手立てが、どの子の思考も進めることができることに繋がったか考えたい。

#### 視点③ 学習の定着を図る終末の個別最適な学びと協働的な学び、教師の未届けの充実

算数の終末問題は、本時、仲間と学び合ったことを自分一人で考え、使えるようにすることを目標にしたい。つまり、個別最適な学習問題が必要であると考え。そこで、練習問題は教科書ではなく、NEW! GIFU ウェブラーニングを先に取り組みようにする。1問目は考え方を書き、教師が見届け、評価ができるようにする。取り組んだ後は自分の学習状況に応じて、「私の学習状況」、「教科書の練習問題」、「チャレンジ問題・先生問題」、「困っている仲間にヒント」、「2回目ウェブラーニング」の中から選んで学習を進めることができるようにする。また、「リアルタイム把握」を活用し、間違いの多かった問題を全体で確認・共有し、学習の定着を図る。



4 評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学ぶ態度
①端数部分の大きさを表す際に小数を用いることや小数の仕組みについて理解している。 ②1/10の位までの小数の加法の意味について理解し,計算をすることができる。 ③1/10の位までの小数の減法の意味について理解し,計算をすることができる。	①小数の大きさについて,図や数直線を用いて表したり,0.1の幾つ分かを考えたりして,大小関係の比較の仕方や,小数の加法及び減法の計算の仕方を考え,説明している。 ②小数やその計算が日常生活にも使えることに気づいている。	①小数でも数の大きさを比べたり,計算したりできるかどうか考えたことを振り返り,0.1の幾つ分と見ることで整数と同じ見方ができることに気づき,次の学習に活用しようとしている。 ②端数部分の大きさを表すことができるというよさに気づき,身の回りから,小数が用いられる場面を見つけようとしている。

5 単元指導計画

時	学習目標	主な数学的活動	評価計画		
			知技	思判表	態
1,2	水のかさの整数で表せない端数部分の大きさを表す活動を通して,既習の数の仕組みや単位の学習に着目して考えればよいことに気づき,1Lを10等分すると0.1Lの何個分で端数部分を表せられると説明することができる。	・1Lより少ないかさの表し方を図や言葉を用いて考える。 ・1Lを10等分した1つ分のかさを0.1Lと表すことを確かめる。 ・1dl=0.1Lであることに着目して,dlで表される水のかさを小数を用いてLで表す方法を考える。 ・「小数」や「小数点」,「整数」の意味を理解する。	● ①	● ①	
3	長さの端数部分を表す活動を通して,水のかさを小数で表したことを基に考えるればよいことに気づき,1cmを10等分すると0.1cm何個分で長さの端数部分を表せられると説明することができる。	・1cmより短い長さをcmで表す方法を図や言葉を用いて考える。 ・1cmを10等分した1つ分の長さを0.1cmと表すことを確かめる。 ・1mm=0.1cmであることを確認する。	● ①	● ①	
4	小数を数直線に表す活動を通して,数直線の1目盛りの大きさが0.1であることに気づき,数直線上の小数を表す目盛りを読んだり,小数を数直線上に表したりする方法を考え,説明することができる。	・1目盛りの大きさに着目して,既習の数直線と同様に数直線上の小数の読み方や表し方を考え,説明する。		● ①	● ①
5	小数の仕組みを調べる活動を通して,用語「小数第一位」を知り,小数の位取りの仕組みや数の構成を理解することができる。	・用語「小数第一位」を知り,小数の位や数の構成について考える。	● ①		
6	小数の大小関係を比べる活動を通して,小数も整数と同じように考えればよいことに気づき,数直線に表したり,数の仕組みや位に注目したりして大きさを比べる方法を説明することができる。	・整数の大小関係と同様に,数直線を活用したり,小数の相対的な大きさや数の構成に着目したりして,小数の大小関係を考える。	● ①	★ ①	
7	小数第一位どうしの小数の加法計算の仕方を考える活動を通して,0.1をもとにすればよいことに気づき,0.1の何こ分で考えると整数の足し算と同じように計算できることを説明することができる。	・1Lますの図から,目盛りに着目させ,0.1を単位として考えられるようにする。 ・0.1の何こ分に着目し,小数第一位どうしの加法計算の仕方を整数の計算に帰着して考える。	● ②	● ①	
8	小数第一位どうしや1から小数をひく減法計算の仕方を考える活動を通して,0.1を基にすればよいことに気づき,0.1の何こ分で考えると整数の引き算と同じように計算できることを説明することができる。	・前時と同様に,0.1の何こ分かに着目して考えさせる。 ・0.1の何こ分に着目し,小数第一位どうしの減法計算の仕方を整数の計算に帰着して考える。 ・繰り下がりのある小数の減法の仕方を考える。	● ③	★ ①	★ ①
9	小数第一位までの小数の加減法の筆算の仕方を考える活動を通して,小数の仕組みや整数の筆算を基に考えればよいことに気づき,それらの計算をし,説明することができる。	・整数の筆算の仕方を想起し,0.1を基に考える。 ・空位や欠位のある筆算では,0を補うことや,位をそろえて筆算することをおさえる。	● ②③		
10	一つの小数についてどのような数か考える活動を通して,今まで学習した小数の仕組みや数の構成に着目すればよいことに気づき,多様な見方や表し方を表現することができる。	・小数の仕組みや数の構成に着目し,数直線や式を用いて,小数の多様な見方や表し方について考える。		● ①	● ①
11	学習内容の定着を確認するとともに,数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。	・練習問題に取り組む。	★ ①② ③	★ ②	★ ②

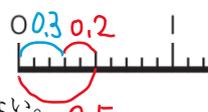
●…指導に生かす評価 ★…記録に残す評価

6 本時のねらい・展開 (8/11)

1. ねらい

小数第一位どうしや1から小数をひく減法計算の仕方を考える活動を通して、0.1を基にすれば足し算と同じように整数の引き算で計算できることに気づき、小数の減法計算の仕方を説明することができる。

2. 展開

過程	学習内容および学習活動 T: 主な発問 C: 引き出したい児童の問いや考え・気づき	教師の指導・援助と評価規準 (□つまずき、○全体への手立て、●個への手立て)
つかむ ↓ 見通す 5分	<p>1, 「1問復習」を解く。(2分) ○<math>0.6+0.8=1.4</math> T: どうやって計算しましたか。 C: 0.1を基にしたら、<math>6+8=14</math>で、0.1の14こ分だから1.4です。 T: 0.1の何こ分で考えると整数で計算できましたね。</p> <p>2, 問題を提示する。(3分)</p> <p>問題 ジュースが0.5Lあります。そのうち、0.2L飲みました。ジュースは何Lのこっていますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時の復習を行い、本時の問題の解決の見通しにつながるようにする。【視点①】</li> <li>ふりかえりシートを活用し、0.1の何個分で考えると、小数の足し算は整数で足し算の計算ができたことを素早く確認する。</li> </ul>
や っ て み る ・ 広 げ る ・ 深 め る 13分	<p>○分かっていること、求めること、式とその根拠を素早く確認する。 T: 小数の引き算は初めてですができそうですか。 C: できそう。 T: どのように考えていけばよさそうですか。 C1: <math>5-2=3</math>。 C2: 足し算と同じようにやります。 T: 本当に足し算と同じようにやっていいのでしょうか。みんなで考えましょう。</p> <p>3, 課題を提示する。(2分)</p> <p>課題 小数の引き算も、足し算と同じように計算できるのだろうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童とのやり取りを大切に、「引き算も足し算と同じようにやっていいのか。」「じゃあ今日は引き算でもできるか考える。」という課題化を子どもたちができるようにしたい。</li> <li>児童とのやり取りで「小数の引き算はやったことがないけど足し算と同じようにやればできそう」という考えを引き出す。</li> </ul>
や っ て み る ・ 広 げ る ・ 深 め る 7分	<p>&lt;説明する方法&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1Lマスを使って説明する。</li> <li>数直線を使って説明する。</li> <li>式と言葉で説明する。</li> </ul> <p>4, 学びの選択をして課題を追求する。(11分)</p> <p>C1: 1Lマスで考えた。0.5Lの5目もりから0.2Lの2目もり減らすと3目もりがのこる。これは0.1Lの3こ分なので、答えは0.3Lです。</p> <p>C2: 数直線の0.5から0.2戻って答えは0.3Lです。 C2 </p> <p>C3: 0.5Lは0.1Lの5こ分。0.2は0.1の2こ分。 <math>5-2=3</math>なので、0.1の3こ分で答えは0.3L。</p> <p>C4: (誤答) なぜ小数第一位を計算するとよいか書いていない。 <math>0.5-0.2=0.3</math>。0をとって<math>5-2</math>をして最後に0を付ける。</p> <p>5, 全体交流する。(8分)</p> <p>T: いくつか考えができましたね。まとめると、引き算はどうやって考えれば計算できるのでしょうか。</p> <p>C1: 0.1をもとに何個分で考えています。 C2: <math>5-2</math>をしています。 C3: 足し算と同じように計算できました。 T: そもそもどうして0.1をもとに考えたのでしょうか。 C1: 小数の引き算は習っていないからです。 C2: <math>5-2</math>で計算できるようになるからです。 C3: 整数の引き算で計算できるからです。</p> <p>6, まとめ。(2分)</p> <p>まとめ 小数の引き算も、0.1の何こ分で考えると、整数の足し算と同じように計算できる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>まずは一人で考える時間として3分たったら知らせる。</li> <li>机間巡視で学びの状態に応じた個別発問を行う。(表①参照) 【視点②-①】</li> <li>考えをノートに書くことができた児童からロイロノートに提出するようにする。また、児童同士でいつでも見ることができるよう共有しておく。 【視点②-②】</li> <li>【ロイロノート・交流での発言で評価】</li> <li>意図的指名を行い、本時の大切な考え方に素早くたどり着き、練習問題を行う時間を十分に確保できるようにする。</li> <li>0.1を基にして0.1の何個分で考えると、<math>5-2</math>のように、小数の引き算が整数の引き算で計算できるようになることを確認する。</li> <li>児童の言葉を使ってまとめる。</li> </ul>
た し か め る 22分	<p>7, 発展問題に取り組み、確かめる。(17分)</p> <p>○①<math>1-0.4</math> (全員で考える。), ②<math>1.4-0.6</math> (ペアで考える。)</p> <p>T: この問題もできるでしょうか。</p> <p>C1: ①1は0.1が10こ、0.4は4こ。<math>10-4=6</math>で0.1の6個分だから0.6。 C2: ②1.4は0.1が14こ。0.6は6こ。<math>14-6=8</math>で0.1の8個分だから0.8。 T: では、1人でできるようにするために練習問題に取り組みましょう。 ・NEW! GIFU ウェブラーニング「きょうのもんだい」に取り組む。終わった児童は「わたしの学習状況」で自分の課題に取り組む。 T: 次はどんなことを考えていきたいですか。 C: もっと難しい小数の計算です。 T: 同じようにできるか次回考えましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①②は発展問題のため、①は全員で考え方を確認する。②は、ペアで考え方を説明し合う。というように段階を踏んでいく。</li> <li>NEW! GIFU ウェブラーニング活用し、個別最適な学習を促す。(図①参照) 【視点③】</li> <li>1問目は考え方も書き、思考を評価できるようにする。【視点③】</li> <li>間違いの多かった問題を全体で確認する。【視点③】</li> <li>次回の学習に触れ、つながりを意識できるようにする。</li> </ul>

本時の評価

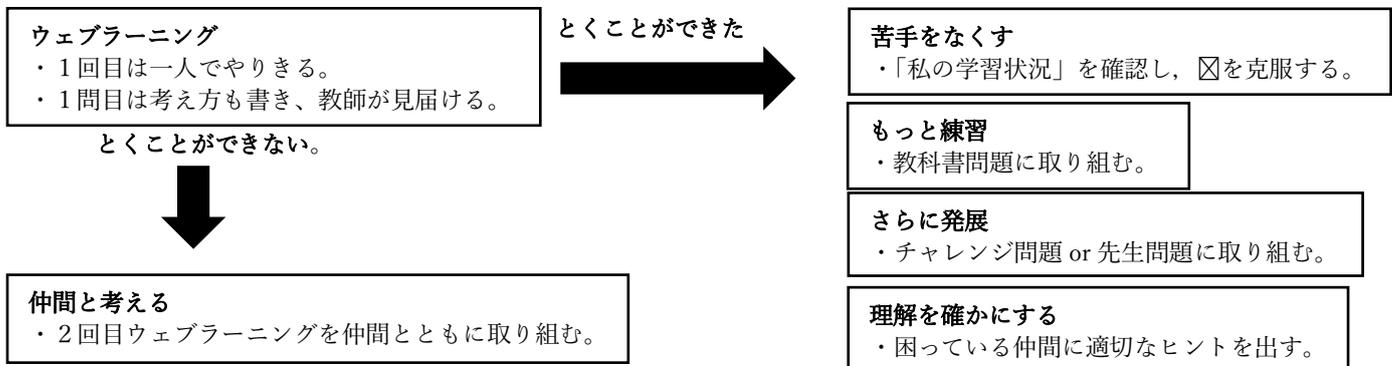
- 0.1の何個分かに着目し、小数第一位どうしの減法計算の仕方を整数の計算に帰着して、説明することができる。
- 小数第一位どうしの減法計算の仕方を理解し、答えを求めることができる。

表①：個々の学びの状況に応じた個別発問計画

○学び方の評価・促し ●算数の思考を進める評価・促し

どのように考えてよいか分からない。	自分で考えることはできるが、考えが十分でない。	1つの方法で考えたことに満足している。
○わからないときはどのように考えるとよかったかな？ ○「足し算と同じように」だから、足し算の「ふりかえりシート」を見てみたらどうかな？ ○まずは教科書で調べることはできそうだね。 ○ロイロノートで、ほかの子たちの考え方を見てみよう。 ○分からないところを聞きに行ってくるといいよ。	●「なぜ、5-2なのですか。理由をはっきり書いていますか？」 ●「図のどこに5-2がありますか。」 ●「どうして0.1のいくつ分で考えようと思ったのですか。わけを書きましょう。」 ●「まず図や数直線で残りの0.2Lってどうして分かったんですか？」 ●「この言葉をまず図でいうとどういうことですか。」 ○「この部分がはっきりしていないね。そのことについて、〇〇さんが考えていたよ。」	●「この言葉をまず図でいうとどういうことですか。」 ○「〇〇さんはまず図と言葉をつなげて考えていたよ。」 ●「つまり、まとめると小数の引き算はどのように考えればいいんですか。」 ●「小数の引き算は足し算と同じようにできるのですか。」 ●「0.5-0.2以外の小数の引き算でも同じようにできるのですか。」 ○「〇〇さんは、ほかの場合でも同じようにできるか考えていました。一緒に考えてみよう。」
解釈から始める	根拠・解釈を問う	発展・統合を問う

図①：学習の定着を図る終末の個別最適な学びと協働的な学び、教師の未届けの充実



<板書計画 (ふりかえりシート)>

第7時

① ② ③

④  $0.3L + 0.2L = 0.5L$

⑤ ⑥

⑦  $0.1$ の何で分て考えよ  
 ①  $0.8 + 0.2 = 1$   
 $0.1 \times 8 + 0.1 \times 2 = 1.0$   
 $0.1 \times 10 = 1$

②  $0.4 + 0.7 = 1.1$   
 $0.1 \times 4 + 0.1 \times 7 = 1.1$   
 $0.1 \times 11 = 1.1$

③  $0.3L + 0.2L = 0.5L$

④  $0.1 \times 3 + 0.1 \times 2 = 0.5$

⑤  $0.1$ の何で分て考えよ

⑥  $0.1 \times 3 + 0.1 \times 2 = 0.5$

⑦  $0.1$ の何で分て考えよ

第8時

①  $0.6 + 0.8 = 1.4$   
 $0.1 \times 6 + 0.1 \times 8 = 1.4$

②  $0.5L - 0.2L = 0.3L$

③  $1 - 0.4 = 0.6$   
 $0.1 \times 10 - 0.1 \times 4 = 0.6$   
 $0.1 \times 6 = 0.6$

④  $1.4 - 0.6 = 0.8$   
 $0.1 \times 14 - 0.1 \times 6 = 0.8$   
 $0.1 \times 8 = 0.8$

⑤  $0.5L - 0.2L = 0.3L$

⑥  $0.1 \times 5 - 0.1 \times 2 = 0.3$

⑦  $0.1$ の何で分て考えよ